

《発行所》

曹洞宗中国管区教化センター

〒722-0033 尾道市東土堂町17-29天寧寺内

TEL.0848-25-2855

FAX.0848-25-4148

心の電話:0848-25-2860

HP <http://kyouka-chugoku.com>

印刷/(株)メディアーツ TEL.0848-36-5671

## 平成二十五年度 布教教化に関する告諭

今、私たちは、いのちに関わる多くの課題に直面しております。先の東日本大震災・大津波・東京電力福島第一原子力発電所の事故などからの復旧復興、原子力発電に頼らない安心できる社会の実現、いじめ、自死、格差、貧困、戦争などの問題への取り組みです。

いずれも曹洞宗が掲げる「人權の尊重、平和の確立、環境の保全」の願いに関わることがらです。人びとの苦難をわが事と受け止め、自分だけの快適さや便利さを求める社会を見直し、一人ひとりのいのちが大切にされる社会を築いていきたいと思います。

そのために本年は、四摂法の「布施」、物でも心でも惜しみなく分かちあう菩薩行を柱として、「向きあう、伝える、支えあう」ことを具体的な目標といたします。道元さまは、「布施」とはむさぼらないことと示されました。それは、へつらうことなく、見返りを求めることなく、互いに生かしあう生き方です。

瑩山さまは、坐禅のとき、慈悲心溢れる本来の生き方が広がると説かれました。無常迅速、生死事大の人生にあつて、一日一日を疎かにせず、み仏とご先祖のみ前で姿勢を調え、息を調え、心を調え、静かに坐りましょう。

道のりは遠く険しくとも、人びとの悲

しみやつらさに向きあい、互いの気持ち素直に伝えて理解しあい、共に支えあう「布施」の菩薩行をすすめてまいりましょう。

お釈迦さまは、一切の生きとし生けるものに無量の慈しみの心をおこすべしとお示しです。

南無釈迦牟尼仏

## 平成二十五年度 布教教化方針

曹洞宗の布教教化は、一仏両祖の生き方を慕い、坐禅に親しみ、その教えを私たち一人ひとりが日常生活の中で実践し、人びとと共に正しい信仰に生きることを目指します。

本年度の布教教化に関する告諭に基づき、布教教化方針を次のとおり策定します。

一、「南無釈迦牟尼仏」のおとなえの普及に努めます。

私たちは、日々「南無釈迦牟尼仏」ととなえ、一仏両祖の教えに導かれた生活をしていきます。

二、あらゆる差別の撤廃と人權啓発の活動に取り組みます。

私たちは、菩薩の誓願をもとに、差別やいじめ、虐待の問題などに心を寄せ、その未然防止、問題の解決に努め、差別撤廃・人權確立のための歩みを続けます。

三、共に喜びを分かち合える平和な社会の

実現をめざします。

私たちは、過去のあやまちと戦争の惨禍を直視し、不戦を誓います。全世界の恒久平和と人類の安寧を願い、相互理解と協調による道を共に歩みます。

四、大いなる自然に生かされていることを思い、「地球環境をまもる全曹洞宗の運動(グリーン・プラン)」を継続していきます。

私たちは、大自然とひとつづきであることを深く自覚し、未来の地球の姿に思いを致し、「もつたない」のこころで環境に配慮した生活をいたします。

五、孤立する人びとと向きあい、支えます。私たちは、年間自死者数が三万人を超え続けてきた状況を重く受け止め、自死者や孤独死などを出さない地域社会ネットワーク作り、兜守りに努め、また、遺族の苦悩に向き合います。

六、人びととの出会いの中で菩薩行を実践します。私たちは、継続して被災地の支援をすすめます。また、悲しみと不安の中にいる人びとに寄り添い、身近なところからボランティア活動など、「布施」の菩薩行を行います。

七、寺院を地域社会の「絆を深める場」に活かします。私たちは、地域社会に積極的にはたらきかけ、寺院を広く開放し、人びととの絆を創生していきます。

八、寺院を地域社会の「絆を深める場」に活かします。私たちは、地域社会に積極的にはたらきかけ、寺院を広く開放し、人びととの絆を創生していきます。

# 管区長退任挨拶

島根県第二宗務所所長

伊藤 皓元



平成二十二年十二月初旬にその任を受け、平成二十四年迄の二年間、管区長を務めさせて頂きました。中国管区の管区長は、中国五県・六宗務所における反時計回りの輪番制が決められていますので、十二年の二年間は役が回ってきます。

私の務めさせて頂いた二年間は、東日本大震災の影響を多大に受けた二年間でした。被災地や被災された方々のことを思えば、我々の影響は取るに足らないモノかもしれません。全国各地さまざまに震災の影響が波及していききました。

まず、三月十一日の震災発生後、管区行事ではありませんが、その月の二十九日には梅花流全国奉詠大会島根大会の中止が決定しました。島根大会は延期や中止が二度目ですので、地元の方々の落胆の大きさを強く感じました。

また、宗務所から管区集会、中央寺族集会などの中止、さらに梅花関係の講習会や検定会の縮小が発表される中、私が最も危機感を感じたのは、四月二十日開催された中国管区教化センターの運営企画委員会において、本庁からの説明で、いわゆる教化教材予算が半分にカットされるかも知れないということでした。

「半分の根拠はどこにあるのか。教化部だけが半分なのか。宗務庁全体の全部門が半分なのか」教化センターのラジオ放送が

各宗務所の協力で良い作品を生み出し、軌道に乗ってきたときだけに矢継ぎ早に質問した記憶が残っています。

その後、本庁側の理解も有りラジオ放送は縮小し存続出来るようになりました。もう一つ良かったことは、その年の本庁主催の管区役員人権研修会は中止が決まっていたのですが、それを中国管内の宗務所の協力を得て自主研修の形で開催できたことでした。

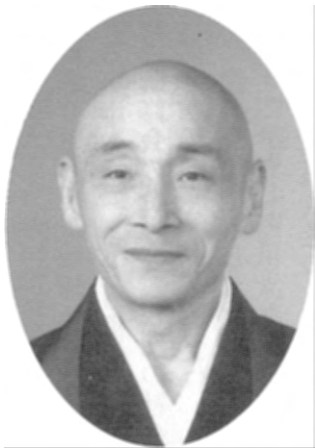
震災二年目、急きよ開催が決まった管区集会は、これまた各宗務所や護持会の協力を得て無事終わり、十二月に島根県第一宗務所へバトンタッチしました。



# 管区長就任挨拶

島根県第一宗務所所長

永見 勝徳



この度、ご法縁により中国管区長の職を拝命致しました。何分、非才の身、管内ご尊宿、諸龍象方はもとより、皆様からのご教導、ご鞭撻の程、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

お蔭様で昨年、拙寺住職勤続四十年目を迎えました。それと同時に、細々とながら、境内地にある昭和八年開園の幼稚園を通して、長年、子ども達と過ごす機会を頂いております。

当園では、教育の土台に、一仏兩祖の教えをもとに、一学道者としての願いを根幹に置いております。最初の集団生活の場におい

て、利他行・他を思いやる心の有り様を伝え育み、実行できたことに喜びを感じられる子どもに成長してほしいという想いがあります。

ある日の出来事です。年少組の女の子が先に使いたいおもちゃを「どうぞどうぞだね」と友達に譲る言動で現してくれました。利他行の教えを小さな身体で一杯受け止め、素直に示してくれた思いやりの姿でした。

正法眼蔵仏教の巻に「破木杓・脱底桶」のお示しがあります。破れ柄杓に底抜け桶、人間のものさしでは、何の用をも成さない、いわば自分の利益にならない無駄事と解釈されます。しかし、破れ柄杓や底抜け桶で、只只、黙々と水を汲む一回一回の無所得の行いこそが、学道者の生き方であり、利他行そのものであると、道元禪師のお示しを私なりに受け

取らせて頂いております。子どもでも大人でも人間「にんげん」である以上、何処までも自己中心的な思考に陥り、自分の不利にならない程度の思いやりという考えであったり、挨拶程度のちよっとしたお礼ぐらいと知らず知らずの内に見返りを求めた行いであったり、遂には我執に舞い戻ってしまう癖があるのでしよう。一方、人間には「じんかん」の読み方もあるようです。これは、人と人との間柄を大切に、家族、同僚や友人との関係をその時々で敬い、和合していくとも理解できるのではないのでしょうか。

私達は人間だからこそ、他のなかに自をみ、自のなかに他をみるという想像力を働かすことができるのであり、また、相手を思い通りにしたいという支配欲から離れ、破れ柄杓、底抜け桶で一回

一回丁寧な水を汲んでゆくように、無所得の利他行ができるのでありましょう。

逆説的ですが、自己中心の行い、利他の行い、どちらもが偽らざる私達人間の姿なのです。ならば、曹洞宗という組織を挙げた大きな取り組みとともに、今、私達僧侶一人一人が日常底をどうあらしめてゆくか、その根幹が自ずと見えてくるように思います。



# 開所四十周年を迎えて

広島県 聖光寺住職 田中 哲彦



て参りました。

### 統 監

初代 田中弘道、二代 長岡徹宗  
三代 宮田玄洞、四代 松原徹心  
五代 鈴木聖道  
六代 田中哲彦(現)

### 主 監

蔵重鉄州、宮田玄洞、檀上尚道、  
大野恭史、用元一雄、村上邦雄、  
横山泰賢(現)

### 賛 事

檀上尚道、横山正賢、山内悦史、  
坂上隆道、村上邦雄、鏡本智昭、  
飯島孝文、山本昌男、宇田治徳、  
中山尚三、蔵重宏昭  
檀上一祥(現)、藤尾純也(現)

本年、「中国管区布教センター」が開所四十周年を迎えます。昭和四十八年十一月一日、「中国四国管区教化センター」として広島市東区「禅昌寺」御山内に事務所を発足、後昭和五十七年一月、四国と分離し「中国管区教化センター」として独立。昭和五十三年事務所を尾道市天寧寺御山内に移転。  
爾来センター布教師・役職員による集中伝道、こども禅の集い、各種研修会の企画等、宗門の社会教化推進に勤めて参りました。  
時代の変化に応じてその用途は変わって参ります。  
現在、毎週放送のラジオ法話都市型布教の一環としてセンター布教師による文化教室での禅教室を開設しています。  
過去四十年の間、左記の諸老師方々によってセンターが運営され

て参りました。  
現在のセンターの礎を築かれた先輩諸老師方の御偉業に心から感謝申し上げる次第です。  
今後共、センター事業に対して、管内宗侶各位の御理解御荷担をお願い申し上げます。  
この度、四十周年記念事業として一、「ラジオ法話集」を出版し、管内寺院に配布。  
中国管内五県の六宗務所から御推薦いただいた布教師の法話

は、「禅をきく会」のプログラムの中「トークコンサート」でお馴染みの事と思います。  
これら珠玉の法話が、日々の布教の現場にお役立て頂ければ幸甚です。  
二、記念講演会  
講題「未定」

### 「鶴一聲」

広島刑務所に教誨師として三十五年余り通っております。当施設は、B M級(犯罪傾向の進んだ中期刑の収容者を扱う)なかなか更生が困難な受刑者を収容する刑務所です。当初は、この人たちは社会に普通に暮らしている人たちと、どこか違うのだろうか！と差別的な目で観察していたような気があります。しかし、どこも違いはありません。話している中に、みんな同じ人間、仏の心を持つている事に気付かされます。く「一切衆生悉有仏性」。それぞれに親がいて家族がありました。社会の中で、周囲の環境と折り合いが合わ

ず、気が付くと塀の中に…。  
彼たちと、接して一番大事だと思うのは「受容」ということ。批判説教はさておき、兎に角しっかりと聞いてあげること。話している間に、自分の人生の交通整理が出来る。話し切って、初めて聞く体勢が出来る。  
水をたっぷり含んだスポンジは、水を吸わない。  
今までの人生で、真剣に話を聞いてくれる家族、友人が周りに居たらきつと違う人生になっていたと思います。  
家族、友人は勿論、宗教家として、真剣に話を聞く場面がもつとあれば、犯罪を起こす人が減り、平和な社会になると信じます。

## 岡山県宗務所だより

### 二十四年度行事報告

教化主事 山本 道雄

二十四年度は西川光典新所長のもと、新たな体勢で臨んだ一年でした。  
六月二十九日、現職研修会を開催。「人びとのこころに向き合うために実践編」を本庁派遣講師 館盛寛行師のもと勉強しました。また、七月五日には寺院研修会でも同じ講師のもと学科編を講義いただきました。

八月二十七・二十八日、大本山永平寺を主会場に「夏休み親子参禅の旅」を開催しました。丸子孝法副監院老師から、子ども達にも分かりやすい禅話を拝聴するなど、参加者五十一名充実した研修ができました。  
十一月三十日に開催した檀信徒地方研修会並びに管内人権学習会では、宮城県宗務所の辻文生師を講師にお迎えして、「震災における被災者の人権」と題してご講演いただきました。  
十月二十六日開催の県梅花流奉詠大会では、毎年九十歳の現役講師さんを表彰しています。が、本年度は百歳の方が元気なお姿で登壇されました。

梅花流にかぎらず高齢化を何かと問題視する昨今ですが、「やる気」は歳とは関係ないことだと教えていただきました。

## 広島県宗務所だより

### 行事の活動報告

教化主事 稲角 道雄

#### 《人権学習・現職研修》

十月三十一日(十一月一日にかけて)、人権啓発相談員 渡邊祥文老師の「原発事故ー人権は守られたか? 福島からの報告」と題して講演をいただき、現職研修は、宮田玄洞老師の「授戒について」と題して講義をいただきました。  
二十五年度は、十一月十二日(十三日)に開催予定。

#### 《檀信徒本山研修会》

十一月七日(九日)にかけ、約百四十名の団参にて大本山永平寺に参籠し、下山後は、大本山總持寺祖院・永光寺に参拝研修。  
二十五年度は、十月二十三日(二十五日)、大本山總持寺にて研修予定。

#### 《檀信徒地方研修会》

十月十日(十一日)にかけて、広島国泰寺・庄原龍興寺を会場として、中野東禅老師の講話、人権学習としてヒューリアみえ、本江優子先生の講話。両会場で約三百余名の檀信徒研修。  
二十五年度は、宗務庁主催の「禅をきく会」を開催予定。

#### 《梅花》

幕張メッセでの全国大会には、約六十五名の講員参加。県大会は、七月一日尾道市因島に於いて開催し、講員約五百余名参加。清興として、二胡奏者「姜 曉艶」の演奏。  
《寺族会》

六月十二日の総会、秋季研修会は、新居浜市の瑞應寺を会場として開催。

## 山口県宗務所だより

人権擁護推進主事 山本 昌男

どの宗務所にも、青年会・寺族会・婦人会・梅花講などの関係団体のご活躍の事と思いが、山口県に於きましては、その他に布教研究会・シャントー山口・傾聴テレホン、さらには教誨師会なども含めれば、直接的・間接的な県内宗門関係の団体は十一を数えます。  
それぞれの団体が曹洞宗として、あるいはいち僧侶として目的を持ち、ご活躍をなさっていることにより、さらに大きな力を発揮することもございます。

山口県に於きましては、東日本大震災の一報後、即座に「山口県曹洞宗東日本大震災支援会議」を立ち上げ、青年会・シャントー山口・寺族会など七団体の協力の下、それぞれの立場で「今、どのような活動ができるか?」を模索しながら、今日まで活動が続けられております。  
いち個人では、思いがあってもなかなか実現できない事であっても、同じ思いの人が集まり会をつくることによって活動ができ、またさまざまな団体が協力することによって、さらなる力を発揮することができます。

今日の「向きあう 伝える 支えあう」の布教方針のもと、その実現に向けたコーディネーター役が、いま宗務所に求められているのではないかと考えております。

実りある一年間を目指して

教化主事 和田 光史

宗務所行政に携わって任期半分が過ぎ、いよいよ残り二年間で、一步一步集大成に向かい邁進してまいりたいと思います。

平成二十四年度の主な事業を振り返りますと先ず教化関係は、五月に特派布教、宗務所布教講習会、七月には檀信徒本山研修会(大本山永平寺様三七一名参加)、八月には徒弟研修会、九月の現職研修会には野田大燈老師をお招きし「禅のものさし」と題し今後の宗侶の役割を中心とした研修でした。また十月の檀信徒地方研修会(四〇〇名参加)には盛田正孝老師をお招きし「縁を活かして生きる」と題し、檀信徒に分かりやすく曹洞宗のお檀家に誇りを持って頂き、一仏両祖様のみ教えを実践していただいたというお話しに熱心に拝聴され、有意義なものとなりました。

次に梅花関係は、検定会、講習会、県奉詠大会にいたっては第四十五回記念大会を迎え、多数の講員様のご参加を頂き盛大裡に開催させていただきました。当県も高齢化に伴い講員の減少傾向にあります。いろいろな形で詠讃歌のすばらしさを伝えていきたいと思えます。

最後に人権関係は、宗務所人権学習会、寺族会、婦人会、教区会等でワークシヨップ方式を実践し、従来の聞くだけの形とは違い、テーマに添って記述し発表し検討する、いわゆる参加型によって人権意識を高めるものとなっております。今年度も例年通りの事業にはなりますが、各関係団体と連携を図り活発な活動を展開し、充実した一年であるよう努力してまいりたいと思えます。

行事活動報告

教化主事 和田 善明

平成二十四年度は、特別な行事はなく、例年通りの活動でした。

昨年度の本庁指定講座は「人々の心に向き合うために」というテーマで、十月の現職研修では実践編を学び、十一月の寺族研修会では、学料編を学びました。檀信徒などから相談された際の回答のしかたを考える機会になりました。檀信徒研修は、六月の本山研修会、九月の地方研修会とも多数の参加者があり、有意義な研修ができました。

人権学習は、九月上旬に旭社会復帰センターで現地研修、下旬に狭山事件について学習しました。

梅花関係は、十月の特派巡回、二月の宗務所奉詠大会などを行いました。過疎化高齢化が進み、年々参加者が少なくなっていくのが寂しく感じられます。

昨年度は教化センター行事である青少年教化指導者研修・管区布教協議会講習会が管内であり、地元からの多くの出席者があり、よい学習機会を得ました。

今年度より当宗務所所長が管区長を務めることになり、これまで以上に管区内諸寺院様にお世話になる機会が増えます。どうぞよろしくお願いたします。

曹洞宗鳥根県第二宗務所の布教化の動き

教化主事 堀江 晴俊

平成二十四年度も研修のテーマとして引き続き「いのち」を取り上げ、九月に実施した現職研修会には、特に「自死」の問題を取り上げ、自死による目に見えない差別や偏見について深く掘り下げた研修を行って来ました。

併せて、当宗務所に関わる諸団体の育成と関係の強化にも力を入れており、昨年度はいつも曹洞宗青年会が三十周年を迎えましたので、第一期会長でもある出雲市十楽寺様において記念式典を挙行すると共に三十周年の活動を顧みて会報縮刷版の発行の準備が進められています。

また、宗務所婦人会では宗務所寺族会の協力を得て、東日本大震災の被災者の方々に暖かい冬を過ごして頂きたいと心のこもった手編みのえり巻きを贈る活動が行われ、会員の協力により計画を上まわる千六十九本のえり巻きを岩手県宗務所婦人会を通して被災地にお贈りする事が出来ました。

全国的に梅花講員の減少が問題となっておりますが、当宗務所においては、師範詠範の養成講座として宗務所独自の梅花養成所を一基二年にて開催をして本年度までに六期六十八名の師範詠範を送りだしております。毎年開催の梅花流地方奉詠大会の登壇数も徐々に増加しつつあり、師範詠範の指導者層の充実と共に講員の増加は、いよいよ平成二十六年度招致が予定されている全国奉詠大会への原動力となると共に、宗務所においても全国大会招致に向けた専任職員を配置し、いつでも招致出来るようその体勢を整えております。

紙上法話

八万六千四百秒

センター布教師 少林寺住職 峯岡 俊徳

この様な話を聞きました。次のような銀行があると考えてみましょう。その銀行は、毎朝あなたの口座へ八万六千四百ドル振り込んでくれます。同時に、その口座の残高は毎日ゼロになります。

つまり、八万六千四百ドルの中で、あなたがその日に使い切らなかつた金額はすべて消されてしまいます。あなただつたらどうしますか。もちろん、毎日八万六千四百ドル全額を引き出しますよね。

私たちは、一人一人が同じような銀行を持っています。それは『時間』です。毎朝、あなたに八万六千四百秒が与えられています。毎晩、あなたがうまく使いきらなかつた時間は消されてしまいます。それは、翌日に繰り越されません。

だから、与えられた時間に最大限の投資をしましょう。そして、そこから健康、幸せ、成功のために最大限のものを引き出しましょう。時計の針は、走り続けています。今日という日に、最大限のものを作り出しましょう。

一年の価値を理解するには、浪人した学生に聞いてみるといいでしょう。一ヶ月の価値を理解するには、未熟児を産んだ母親に聞いてみるといいでしょう。

一週間の価値を理解するには、週刊誌の編集者に聞いてみるといいでしょう。一時間の価値を理解するには、待ち合わせをしている恋人たちに聞いてみるといいでしょう。

一分の価値を理解するには、電車をちやうど乗り過ぎた人に聞いてみるといいでしょう。



一秒の価値を理解するには、たった今、事故を避けることができた人に聞いてみるといいでしょう。

十分の一秒の価値を理解するためには、オリンピックで銀メダルに終わってしまった人に聞いてみるといいでしょう。

あなたの持っている一瞬一瞬を大切にしましょう。そして、あなたはその時を誰か特別な人と過ごしているのだから、十分に大切にしましょう。その人は、あなたの時間を使うのに十分ふさわしい人でしょうから。

そして、時は誰も待ってくれないことを覚えましょう。昨日は、もう過ぎ去ってしまいました。明日は、まだわからないのです。今日は、与えられるものです。



# 第28回子ども禅インサマーセミナー in 島根・出雲湖陵温泉

平成二十四年七月二十五日(水)～二十七日(金)

## 子ども禅インサマー セミナー

指導員 中倉 歩

今回も指導員としてこの子ども禅インサマーセミナーに参加させて頂きました。二度目ということ、前回参加していた子ども達も私達指導員のことを覚えてくれたことがまず嬉しかったです。また、今回初めて会う子ども達もいましたが、三日間の内にみんなと触れ合うことで仲良くなれたと思います。

一日目のお楽しみ会では、豊来家玉之助師匠が来てくださり、伝統的な芸を拝見させて頂きました。子どもから大人までみんな楽しんでるような技もあり、子ども達はもちろん楽しそうでしたが、私達もとても楽しい時を過ごすことが出来ました。

二日目は坐禅から始まりまし

た。坐禅を組むことで、今の自分を見つめ直すことができ、また自然を身近に感じることができました。ご飯の前には食前法話を唱え、食事ができることに對して感謝をしなければならぬと改めて教えて頂きました。普段当たり前のように食べている物を作っている人や、各地へ運ぶ人、調理する人など食事に関与している様々な人達に對して感謝の気持ちを持つている食事をしようと思いました。午後はからは、しまね花の郷というフラワーパークで何種類もの植物を見たり、押し花を体験しましたが、子ども達も押し花を使ってキーホルダーやしおりを一生懸命作っている姿を見て微笑ましくなりました。そして夜はスタンツの発表で、五班は一休さんの紙芝居をして見事賞をもらうことができました。短い時間の中の練習でしたが、みんな協力しながら取り組んでいたの、賞がもらえて本当に嬉

しかったです。最終日は竹とんぼ作りを体験し、職人の技も間近で見ることができました。竹を薄く切るの難しかったですが、自分で作った竹とんぼが上手に飛ぶと頑張ったよかったです。この三日間で様々なことを経験しましたが、子どもが何人か体調不良になってしまった時は、指導員としてまだまだ未熟だと感じ、自分の不甲斐なさに腹が立ちました。しかし他の指導員の方々や、宿泊先の従業員の方々に色々と助けて頂き本当に感謝しています。また二度もこのセミナーに参加することができ多くの子ども達の笑顔を見ることができました。このセミナーに関わった全ての人達に感謝の気持ちを伝えたいです。また機会があれば是非またこのセミナーに参加したいと思

## 二度目の 禅インサマー

六年生 大久保 綾人

ぼくは、今年で四回目のセミナーでした。

今年がサマーセミナーでも、友達ができるかが不安でしたが、行ってからすぐに、二人も友達が出来たので、安心しました。

一日目のお楽しみ会で、玉之助師匠の芸を見ず、話して夢中になってしまいました。せっかくだったのに、すみませんでした。二日目は、押し花体験と出雲大社でした。

押し花体験では、自分が思っているように、キーホルダーを作ることができて、うれしかったです。キーホルダーは、お母さんにプレゼントしました。喜んでくれたので、作って良かったです。

出雲大社は、ぼくが一番行きかけた所でした。色々、見学するために歩いてみて、すごく良い所だなあ、と思いました。特に印象に残ったところは、日本国国旗の大きさです。国旗までの長さが四十七メートルで、都道府県の数と一緒に、おもしろいなあ。と思いました。

夜のキャンドルサービスでは、



佐瀬道淳老師

火の子をしました。練習に遅刻して、電話で呼び出されて、班のみんなに笑われたので、はずしかったです。

最終日の閉会式で、竹とんぼ大会の表彰があつて、二位で呼ばれました。作った竹とんぼ、大事に使います。ただ、一位の人が、おしようさんだったので、「大人げないなあ。」と、三位の人と言いました。

さよならパーティで、友達の横に座って、しゃべりながら食べて、楽しく時間を過ごせました。来年は、中学生になります。部活とかあつて、行けるかどうかわかりませんが、行けたら行きたいです。

背がずいぶん高くなった馬来君、来年、もし会えたら、きつとぼくも、背が伸びてるはず。会えるといいな。



本庁主催

平成二十四年十一月三十日  
於：山口県山口市  
「山口県総合保健会館  
多目的ホール」



講師

村上 和雄氏

# 禅をきく会

講師

露の新治 師匠



センター主催

平成二十三年十一月九日  
於：島根県雲南市  
「加茂文化ホール」

山口県宗務所  
教化主事 荒木玄修

平成二十四年十一月三十日、本庁主催の「禅をきく会」が、山口県総合保健会館において、檀信徒大会とあわせて開催されました。

午前十時二十分より、開会式、東日本大震災・万国災害追悼法要を厳修して、ご冥福と復興をご祈念いたしました。

中国管区統監老師のご指導による「いす坐禅」で、心と呼吸を整える事ができ、午後からは、百名以上の一般の方も入場され、満席の中、村上和雄先生の演題「いのちを受け継ぐ」の講演を拝聴しました。

先生は、遺伝子工学の研究とおして、人間は、助けあい、ゆずり合い、分かち合いの心によって進化し、「おかげさま」「もったいない」という感謝や利他の心を実践していくことが必要であると、ユーモアをまじえ、わかりやすく語られました。特に一般の方は、熱心にメモをとられ関心の高さを感じまし

た。

「生と死は一つの命の裏と表で、死を軽く扱えばその生も軽くなる。死をきちんと考えなければ、生の充実もないし、人間のほんとうの幸せもない。」という言葉をかみしめ、味わって生きたいと思えます。

トークコンサートでは、「今日のこのころ、私のこのころ」のラジオ放送の原稿を、中司さんのやさしい口調、広原さんのすばらしいエレクトーン、そしてイメージにあわせた背景画によっ



て、立体的に見事に表現されました。

講演の後、村上先生も会場で聞かれ大変感動され、約七五〇名の厚い拍手と「よかった」「感動しました」「今日の禅をきく会のビデオは出来ないか。」等、ありがたい言葉を聞きながら、閉会しました。

最後にこの会にご協力いただいた皆さま、復興支援活動を継続して行っている青年会の皆さまに、感謝と敬意を申し上げます。

島根県第二宗務所護持会  
長寿寺檀徒 福田 汎

本年は十一月九日、雲南市加茂文化ホール「ラメール」で正午より受付、十三時から十七時までの間約六百名の参加を得て盛大に催された。

この建物を遠望するに、銀色に輝くヨーロッパの古城を思わせる趣である。著名な建築家渡辺豊和氏の設計で、収容人員七百名のドーム状の大ホールが売り物で、其の特異な形状から音響効果が素晴らしく、演劇、コンサート等がしばしば催されている会場である。

今回の「禅をきく会」のプログラムも大変ユニークで、メインの講演は関西の落語家、露の新治師匠の「お笑い人権高座」で始まった。曹洞宗の大命題である人権問題について落語家から聞くのは初めてであった。

これまで地域の大小の研修会においても、人権問題についての講話を聞く機会はたびたびあったが人権活動家、社会福祉の体験者、宗教学者等の知識人

が殆どであった。

新治師匠は社会の不正義、不公正について深く考える事があったようで、曹洞宗が取り上げている差別問題から平和、環境に至る諸問題を「新ちゃんの笑い人権高座」に取り上げ全国を飛び回っているとのこと。当日は時間の制約もあり、持し難きを要約しながらも重い話を笑いを取りながら、肩を楽に理解を深めることが出来た。

後半の三十分は本来の落語で、こんびら舟舟の枕から大笑いを楽しんだ。次いで最後の催しのトークコ

ンサートは、広島県からお出でになったラジオ法話のナレーター中司弘子さんとエレクトーン奏者広原かおりさんの素晴らしいコラボを楽しませてもらった。

宗派のお寺から投稿されたものをピックアップして、中司さんが朗読し、其の合間を広原さんが美しい音色を奏でるもので、これだけでも堪能できるものであった。

ご参加の檀信徒の皆も主催者の意図する所を十分身中に理解して、宗派の発展を誓った。



# センター布教協議会・講習会



島根県第一宗務所書記

井田 昭彦

平成二十四年九月十一日～十二日

於 益田市・三好家

メイン講師 宮城県徳本寺 早坂文明 老師

## センター布教協議会・講習会に参加して

### 講習会に参加して

中国管区布教協議会・講習会が、平成二十四年九月十一日・十二日の両日、島根県益田市三好家を会場に行われました。メイン講師は、元東北管区教化センター統監・宮城県徳本寺住職の早坂文明老師でした。

東日本大震災は、日本を大きく



早坂文明 老師



変えました。三月十一日は忘れることのできない日です。

早坂老師のお寺も被災されました。特に、兼務住職をしておられる宮城県山元町の徳泉寺は大津波に襲われ、伽藍・仏具等はすべて流され、ほとんどの檀家さんが被災され、多くの方々が亡くなくなりました。

東日本大震災の惨状を、画像で淡々とお話されました。その感情を抑えた話しぶりから、被災され

た状況の凄まじさがひしひしと伝わってきました。

被災されながらも休むことなく続けられたテレホン法話。寺院復興のため「はがき一文字写経」。遺族や被災者を励まし支えたいとの思いから詞を作り、シンガーソングライター・やなせななさんが作曲した復興支援歌「まけないタオル」、そして追悼曲「千年眠れ」。あわせて、ちょっと短めの巻けないタオルを作って被災支援。など。

早坂老師の卓越した企画力と行動力、一途な志に感服し、敬意を表すると共に大きな触発を受けました。

「平成二十三年三月十一日の昼食、あなたは何を食べていましたか。」

この質問に私は答えられませんでした。改めて震災について思い起こすきっかけとなり、また自身自身の毎日の行持を大切にしていかなければならないと再認識されました。



東日本大震災から二年が過ぎました。テレビのニュースを見て、震災の事実が風化しつつあることを感じています。自分自身どうあるべきなのか、考えさせられています。

# 青少年教化指導者研修会

## 研修会に参加して



宇野全智 老師

昨年度の青少年教化指導者研修会は六月十一日から十二日にかけて、島根県益田市の三好家を会場に行われました。今年は地元で開催され、他の青少年教化員と共に参加させていただきました。メイン講師の宇野全智師の講義は私と同世代ということもあり、関心を持って聞かせていただきました。宗教離れしている今だからこそ寺院としての活動、宗侶としての

役割が求められる、宗教が無視されているわけではなく、アプローチの仕方がわからないという面もあるように感じました。朝活禅や子ども達の修行体験など、活動の事例を上げられての紹介は大変参考になりました。

宇野師の講義の中で最も印象に残っているのが、副住職をお務めの山形県地福寺様の活動でした。ネパールの農業研修者から始まり、引きこもり、学校停学者の受け入れなど、お寺に多くの人たを住まわせ、社会復帰を支援する活動には私自身保育園園長という立場から大変考えさせられる内容でした。現代社会、特に子ども達は、いじめ問題に代表されるように誰にも相談できずに一人で悩んでいるようです。この研修で青少年教化員としてのどのような活動が求められているのか、その少しがわかったような気がします。そしてどう行動に移していくか考えていきたいと思えます。



曹洞宗 青少年教化員 城市 泰紀

平成二十四年六月十一日～十二日

於 島根県益田市・三好家

メイン講師 総合研究センター専任研究員 宇野全智 老師



# お知らせ

## 青少年教化指導者研修会

- 日時 平成25年6月11日(火)正午受付 13時開講～12日(水)正午まで
- 会場 岡山県
- 講師 上智大学グリーンケア研究所 所長 高木慶子 先生  
広島県萬福寺住職 高橋道英老師 (青少年教化について)
- 参加費 13,000円
- 対象 青少年教化員・青少年教化を志す宗侶
- 申し込み先 各宗務所
- お問い合わせ 教化センター



## センター布教協議会・講習会

- 日時 平成25年9月10日(火)正午受付 13時開講～11日(水)正午まで
- 会場 山口県
- 講師 大本山永平寺 前布教部長 西田正法 老師
- 参加費 12,000円
- 対象 宗務所役員・センター布教師・宗務所布教師・青少年教化員 その他
- 申し込み先 各宗務所
- お問い合わせ 教化センター

## 第29回 平成25年度 子ども禅インサマセミナー

in 山口下関・火の山ユースホテル

開催日：平成25年7月25日〔木〕～27日〔土〕

講師：松原徹心 老師

参加費：子ども(中学生以下) 1万円(2泊3日宿泊・諸費用・保険・記念写真代込)  
大人 2万円(2泊3日宿泊・諸費用・保険・記念写真代込)

集合時刻：7月25日(木) 午後12時半より受付 13時開会式

集合場所：火の山ユースホテル(※宿泊も同所)

〒751-0813 山口県下関市みもすそ川町3-47 TEL083-222-3753

お問い合わせ先

主催：曹洞宗中国管区教化センター

〒722-0033 尾道市東土堂町17-29 天寧寺内 TEL(0848)25-2855 FAX(0848)25-4148  
(ホームページ)http://kyouka-chugoku.com

7月	行程概要
25日 (木曜日)	◎13時より開会式 ◎松原老師からの坐禅指導 ◎お楽しみ会 ユースホテル 泊
26日 (金曜日)	◎朝のおつとめ ◎班別行動・宿題 ◎海響館(水族館)見学 ◎厳流島上陸・風あげ ◎門司町並み拝観・プール ◎キャンドルサービス ユースホテル 泊
27日 (土曜日)	◎朝のおつとめ ◎ロープウェイ乗車 ◎さよならパーティー

※諸事情により内容が変更されることもございます。ご了承下さい。

## センター布教師ご紹介

岡山	102番	万福寺	翁 泰仙	〒716-0335 岡山県高梁市成羽町不寄237	☎ 0866-45-2568
広島	54番	少林寺	峯岡 俊徳	〒723-0032 広島県三原市須波西2丁目23番1号	☎ 0848-67-0510
山口	8番	仁平寺	田中 大道	〒753-0214 山口県山口市大内御掘4201	☎ 083-927-4464
鳥取	151番	安国寺	森下 慈孝	〒683-0831 鳥取県米子市寺町50	☎ 0859-22-3836
島根	309番	西禅寺	小川 裕史	〒699-5122 島根県益田市本俣賀町5	☎ 0856-25-2905
島根	47番	弘長寺	森田 裕光	〒699-0404 島根県松江市宍道町東来待854	☎ 0852-66-0128

# 曹洞宗婦人会 中国管区研修会

平成二十四年十月十日～十一日  
於 長門市湯本・大谷山荘  
メイン講師 奈良康明 老師

山口県 岩崎寺婦人会 江本 法子



奈良康明 老師

時がゆったりと流れる、山里の温泉地長門湯本「大谷山荘」に於いて、十月十日、十一日の両日に亘り、三百四十七名の皆様がご参加くださった中国管区研修会が開催されました。遠くより来て頂く皆さんに楽しく研修して頂けるようにと願いながら受け入れの準備を致しました。



南慧昭 老師

に日常の出来事を事例にとり「無常の現実を受け止め、諦め、尚、前向きに生きましよう。」と、お話しくださいました。

さらに、きやら募金SVA報告の後、チェックイン。お部屋で寛いでから薬石に移りました。

東北震災の時人々に、今、自分は何をすべきかを問いかけた「こたまでせうか」の作者、金子みすずの生誕地で(みすずワールド)を感じてもらえればと思いい、みすずの心を歌っておられる「ち

ひろ」さんに出演して頂き、トークや手話を交え通った伸びやかな歌声を聴きながらの薬石を楽しんで戴きました。

二日目、中国管区センター統監、田中哲彦老師の坐禅指導と法話で始まり、小食を戴き、昨日に続き奈良康明老師の人権学習で「生きとし生けるもの全てが平穏でありますように」と切々とお話しください、お釈迦様の慈悲の祈りが胸に込み入りました。少し疲れが感じられる頃でしたが、南慧昭老師のご講演は「思いやりとありがとう」「故郷」「絆」等、沢山の心の歌で会場は手拍子と歌声で一体となりました。幸福な余韻を感じながら閉会式を終え、来年は島根県での再会を約束し、お別れを致しました。

最後に、この大会の為に遠く山形県よりご出席いただきました、本部婦人会飯田邦子副会長より、東北の復興現状をお聴きし、末永



い支援の必要を感じ、共に頑張らなければいけないとの思いを改めました。皆様本当に有難うございました。



# 平成25年度事業計画

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

月	日	行 事	主 催	備 考
4	4(木)～5(金) 15(月) 23(火) 24(水) 下旬	全国教化センター連絡協議会 教化活動推進委員会 センター布教師協議会 教化活動企画委員会・制作委員会 中国管区教化センター報第29号発刊	本 庁 センター センター センター センター	宗務庁 広島市 ホテルニューヒロデン
5	9(木)～10(金)	人権三者協議会 曹洞宗婦人会中国管区役員会	管 区 婦 人 会	島根県益田市 三好家
6	11(火)～12(水)	青少年教化指導者研修会	センター	岡山市 アークホテル岡山
7	18(木)～19(金) 25(木)～27(土)	管区役職員人権啓発研修会 第29回子ども禅インサマーセミナー	管 区 センター	島根県邑南町 下関市 火の山ユースホテル
8				
9	10(火)～11(水)	センター布教協議会・講習会	センター	山口市 ホテル松政
10	9(水)～10(木) 16(水) 22(火) 26(土)	曹洞宗婦人会中国管区研修会 禅をきく会 教化活動推進委員会 禅をきく会	婦 人 会 本 庁 センター センター	大田市 あすてらす 福山市県民文化センター福山 広島市 絵津市 総合市民センター
11	19(火)	全国教化センター後期連絡協議会 センター開所40周年記念式典	本 庁 センター	広島市リーガロイヤルホテル
12				
1	下旬	中国管区教化センター報第30号編集会議	センター	
2		教化活動企画委員会・制作委員会	センター	
3				

4月～3月(毎週土・日)	ラジオ放送「今日のこころ 私のこころ」	センター	RCC中国放送(キー局)
4月～3月(第1水曜日)	中国新聞文化講座「やさしい禅入門」	センター	広島市 クレドビル教室
4月～3月(第3火曜日)	中国新聞文化講座「坐禅のすすめ」	センター	広島市 メルパルク教室
4月～3月(第4水曜日)	中国新聞文化講座「はじめよう the 禅」	センター	広島市 メルパルク教室
2月 日( )～ 日( )	管区布教委員長・役職員会議	管 区	島根県第一宗務所管内(予定)

## ■センター役職員

統 監	田中哲彦	聖光寺	〒732-0048 広島県広島市東区山根町29-1	☎(082)264-1220
主 監	横山泰賢	禅昌寺	〒720-0824 広島県広島市東区戸坂山根3-2-7	☎(082)229-0618
賛 事	檀上一祥	吉祥寺	〒722-2416 広島県尾道市瀬戸田町林686	☎(0845)27-0719
賛 事	藤尾純也	観音寺徒	〒716-0311 岡山県高梁市備中町平川6777	☎(0866)45-2003

## 編集後記

本年度は、布施を中心に菩薩行を実践することが布教教化方針に盛り込まれております。そして、その実践の姿を短い詩に詠んだのが次の一句だと思っております。

「身を削り人に尽くさん すりこぎの  
その味知れる 人ぞ尊し」

決められたことを普段と同じように行うのは、皆同じ、当たり前のことです。「布施」の菩薩行を実践するには、「人には尽くしたいけど、自分の身は削りたくない」というような駆け引きや計算があつては適わぬ事です。

あるイタリアのカトリック教徒から、「曹洞宗というか日本の仏教僧侶は、妻帯をして、一般の在家と変わらぬ生活をしておられますが、出家者と在家者の違いは何ですか?」と問われたことがあります。「出家と在家というように二見をもって分別する以前の本来の自己を説いているのが禅仏教である。」などと答えることも可能でしょう。しかし、それでは的確な回答とはいえません。私たちはこの問いを深く心に留めて、只管打坐の実践を通して修証一如の生き方を学び、菩薩行の実践を通して自ずからその答えが滲み出てくるよう弁道精進しなければなりません。

今年四十年の節目を迎える当センターが、すりこぎの見本となるよう更に精進して参りたいと存じます。引き続き皆様のご協力とご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。